

平成 30 年度学校評価に関するまとめ

【はじめに】

学校教育法第 42 条に、「文部科学大臣の定めるところにより当該校の教育活動その他の学校運営状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るために必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならない」と規定されている。

これに基づき本校においても生徒、保護者による学校評価アンケートならびに教員による自己評価アンケートを毎年継続して実施し、それを検証することにより次年度への重点課題を設定し、さらなる本校の学校運営の改善と発展を目指すこととしている。

1. 本校の基本方針

本校は仏教精神に基づく人格の陶冶を建学の精神とし、お釈迦様の教えを伝える日本仏教の各宗祖師たちのことばや行跡を現代に生かしながら、人間性豊かな知育・体育・徳育の養成に努めることを教育方針としている。

2. 重点目標

(1) 建学の精神に基づく教育・幼児教育との融合・調和

- ◆ 勤行・宗教の授業・道徳教育の推進
- ◆ 三重大行事による仏教精神の体得
- ◆ 八正道を柱とする教育実践目標の設定・推進

(2) 教育ビジョン実現に向けた取り組み

- ◆ 分かりやすく魅力ある授業づくり
- ◆ 新学習指導要領への取り組み推進

(3) 教育目標達成に向けた教育の質の向上

- ◆ 学力向上のための取り組み
- ◆ 心の教育
- ◆ 国際化に向けた教育
- ◆ 地域との連携

(4) 生徒の支援体制教科に向けた取り組み

- ◆ 学習指導の充実
- ◆ キャリア教育の推進(進路指導)
- ◆ 生活指導の徹底
- ◆ 特別支援の充実

(5) キャンパス施設整備

3. 平成 30 年度の主な取り組み実績

5 コース制から 6 コース制へ改編,

仏教関係行事(仏教三重大行事, 年二回坐禅会, 松島禅の集い, 長生園訪問, 生徒及び教員こころの研修) 全学年対象写経体験, 陸奥国分寺薬師堂のガイドボランティア, 校章バッジの着用,

ICT教育の活用授業, 各教科研究授業, 公開授業週間, ホワイトボード活用グループワーク授業, iPad 活用授業, デジタル新聞活用授業, ICT 活用授業教員勉強会,

健康に関する講演会(年 3 回), 教科の専門性を高める研修への参加, 各種教員研修会・講演会,

模擬試験, GTEC 四技能テスト, GPS-Academic, 長期休業中講習会, 勉強合宿, 放課後講習, 公務員対策講座, 朝読書, 選書会, 読書感想文コンクール, 授業での図書館利用の推進, レファレンスサービ

ス, ビブリオバトル, 看護体験, 職場見学, 進路テーマ別ガイダンス, 進路講演会, 個別小論文面接指導, インターンシップ, ボランティア体験, 各種実習, 交通安全教室, マナー教室

教育相談コーディネーターを中心とした相談体制と生徒学習支援体制の構築, 放課後学習サポート,

SEIWA ポータルへの授業動画の本数を増やし配信, 定期的保護者会の実施, 保護者対象講演会, 教育相

談, いじめアンケート, 学校評価アンケート, 授業評価アンケート,
 国際ロータリー短期派遣事業, U-16 サッカー代表日本文化体験交流, EU 領事による講演会, JICA ボ
 ランティア講演会, NPJプログラムアメリカ来校団受け入れ, 姉妹校からの留学生受け入れ, 国際理
 解に関する生徒弁論大会, グローバルウィーク (国際理解教育週間), 芸術鑑賞会, 私費ターム留学制度,
 オープンキャンパス, 学校説明会, 中学校訪問, HP コンテンツ充実, デジタルパンフレット展開, 他
 広報活動, 出前授業, Web 出願制度開始,
 高大連携事業, 地域連携事業 (薬師堂マルシェ), 聖和幼稚園各種実習, 幼稚園ボランティア,
 女子合宿施設週「修磨館」竣工, 名取総合運動場ウォーターサーバー設置・トイレ改修など

【平成 30 年度実施アンケートについて】

(1) 質問項目について

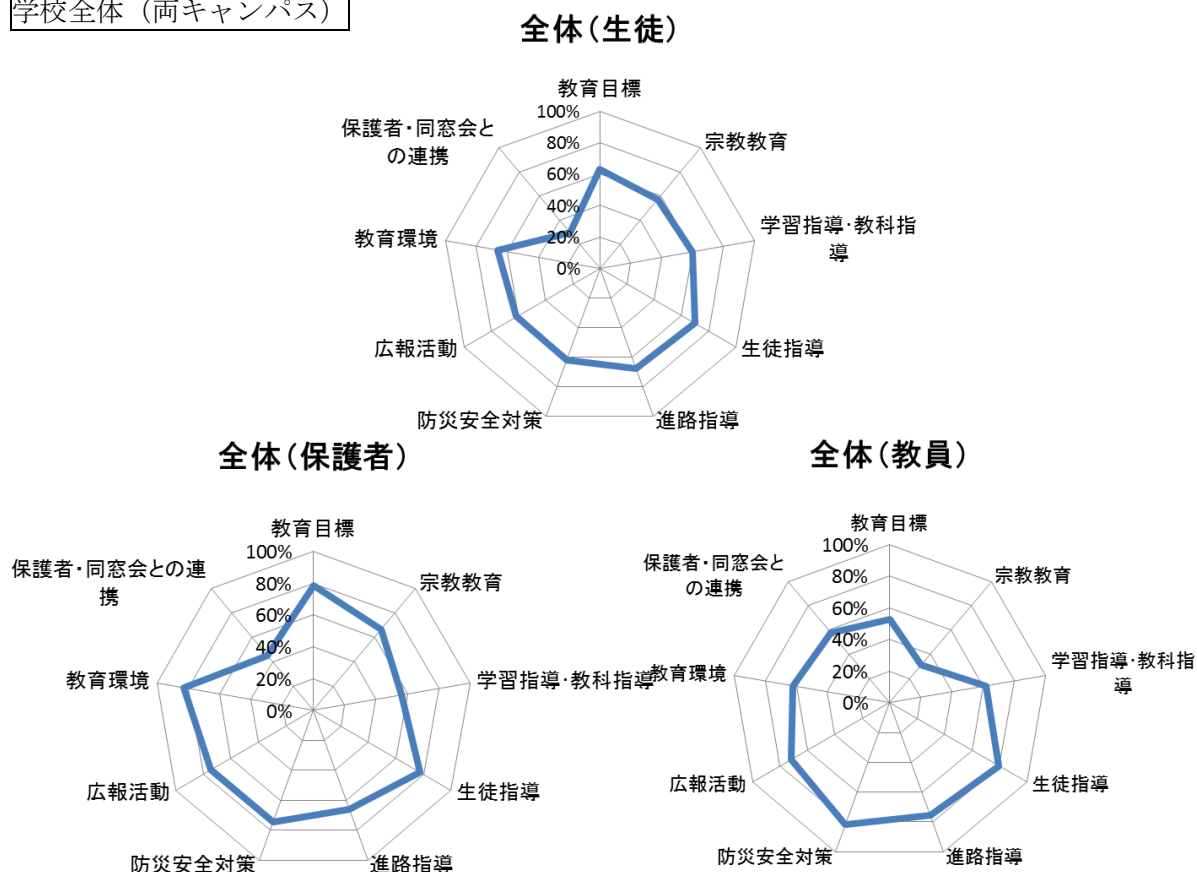
質問項目は 21 項目あり, 内容は教育目標, 宗教教育, 学習指導, 生徒指導, 進路指導, 防災安全教育,
 広報活動, 教育環境, 保護者・同窓会との連携に関する質問で構成されている。各質問項目 (下記参
 照) に対し, ①「そう思う」②「だいたい思う」③「あまり思わない」④「思わない」⑤「わからない」
 の中から一つ選び回答する。すべての質問項目に対し, ①「そう思う」②「だいたい思う」と答えた場
 合, これを肯定的な回答に分類し, ③「あまり思わない」④「思わない」と答えた場合, これを否定的
 な回答に分類し, まとめを行った。

(2) 実施内容

- 実施時期 : 平成 31 年 2 月
- 調査対象 : 両キャンパス生徒・保護者・教員
- 調査型式 : 匿名アンケート調査 ※県外等の保護者には郵送で対応
- 回答率 : 79.6% (平成 29 年度 82.9%)

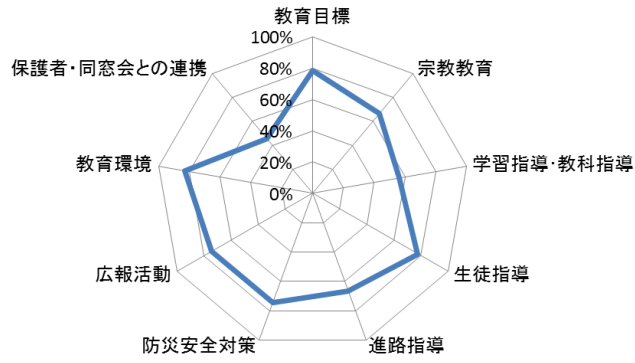
(3) 生徒, 保護者, 教員アンケート分析チャート

学校全体 (両キャンパス)

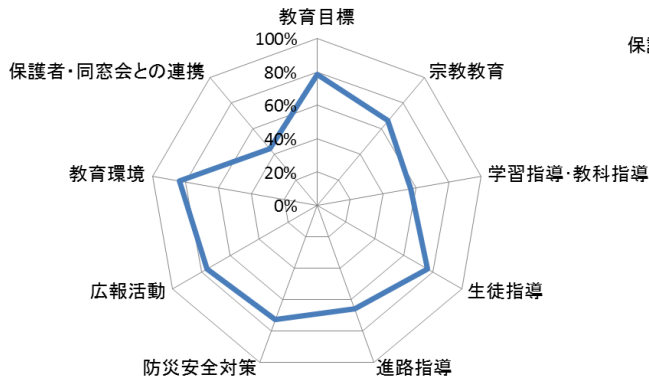


薬師堂キャンパス

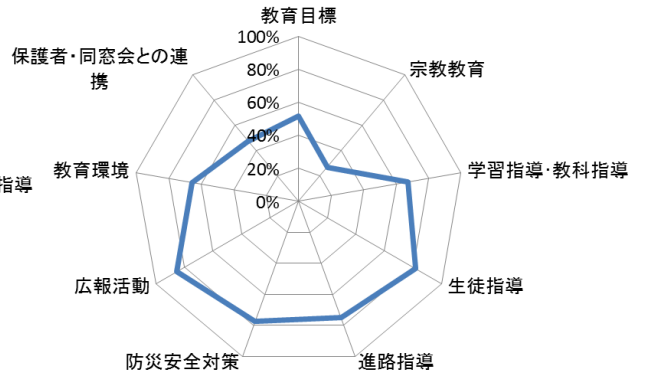
薬師堂(生徒)



薬師堂(保護者)

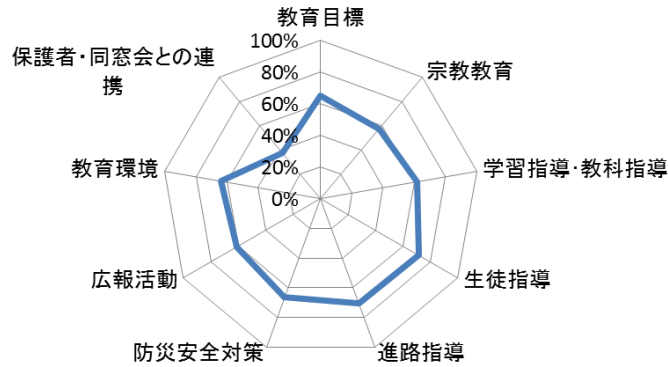


薬師堂(教員)

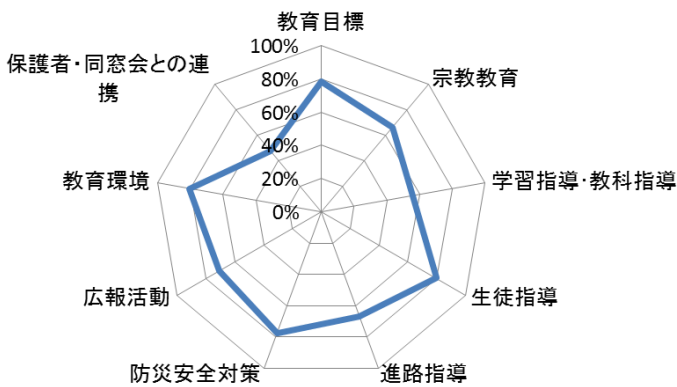


三神峯キャンパス

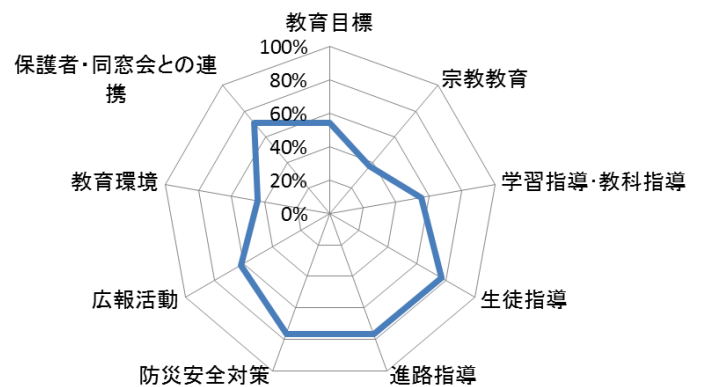
生徒(三神峯)



保護者(三神峯)



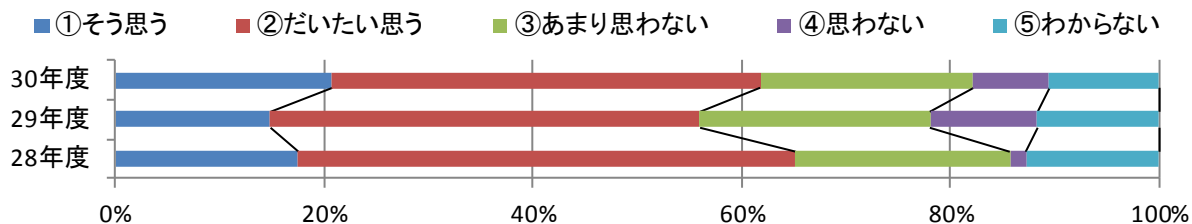
教員(三神峯)



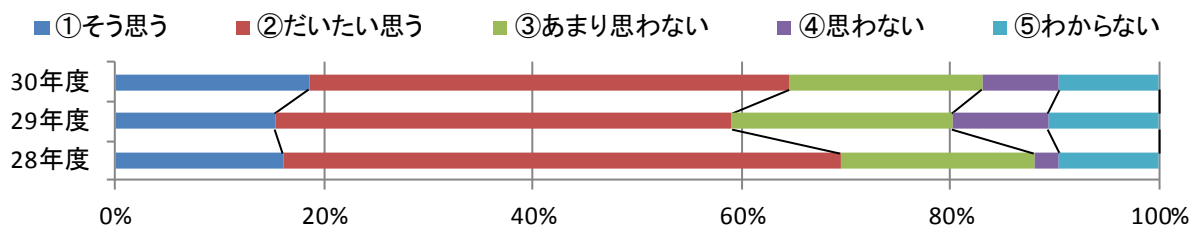
【質問項目別生徒回答経年変化グラフ】

質問項目

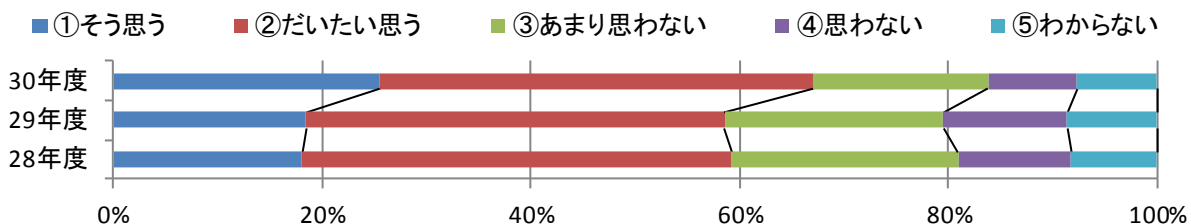
1 生徒は本校の建学の精神・校訓を理解している。



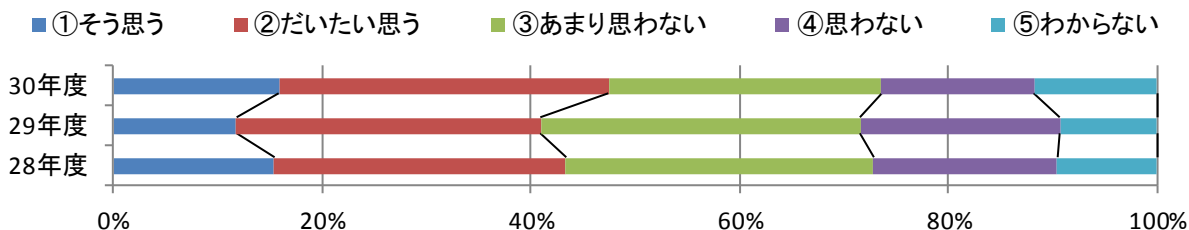
2 本校のコース，教育課程は生徒の個性を伸ばし，将来の希望を達成できるよう工夫されている。



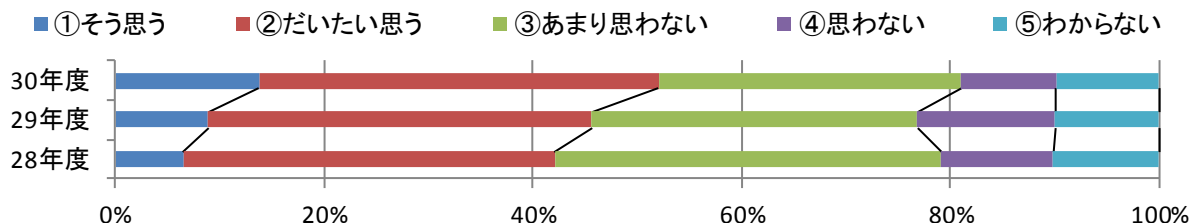
3 週一回の勤行や宗教の授業を通じて，仏教精神を体得できた。



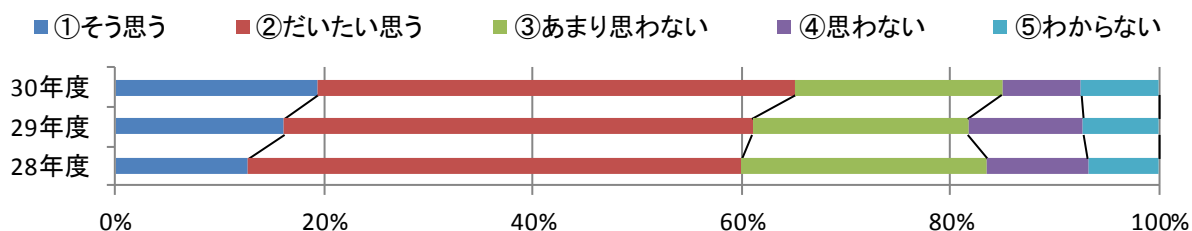
4 花まつりなどの宗教行事により新しい知識を得，仏教精神を日常の行動にいかしている。



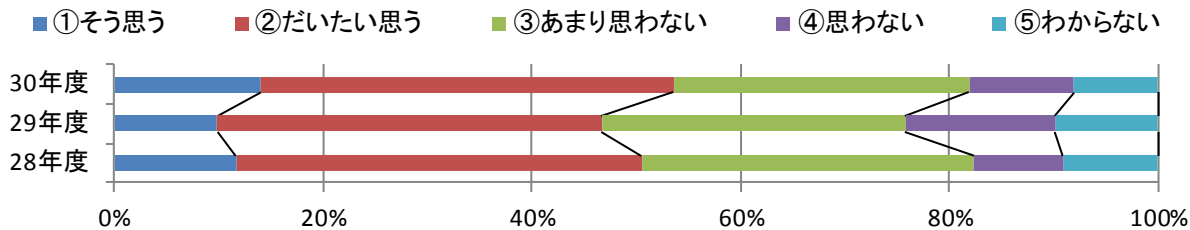
5 授業の目標や計画が明確に示されているので学習のようすがよくわかる。



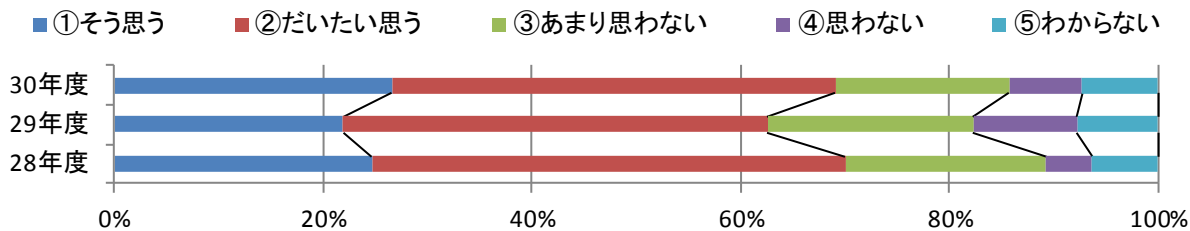
6 授業では各先生が，教材や教え方を工夫し熱心に指導している。



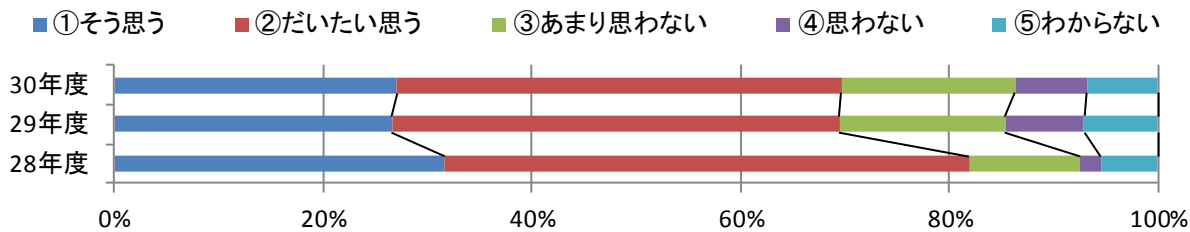
7 生徒にとって学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている。



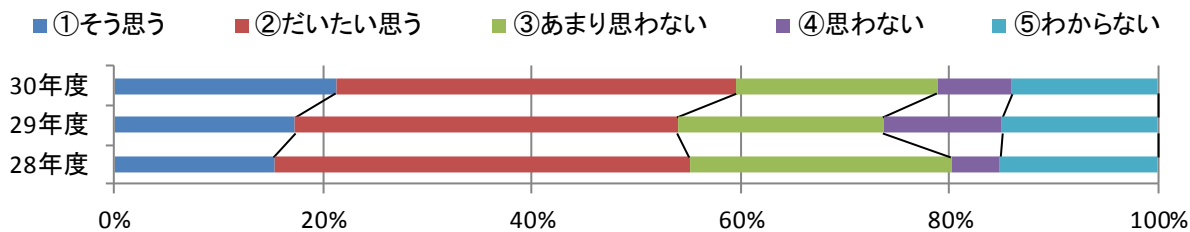
8 評価の仕方や基準が明確であり、事前に説明されている。



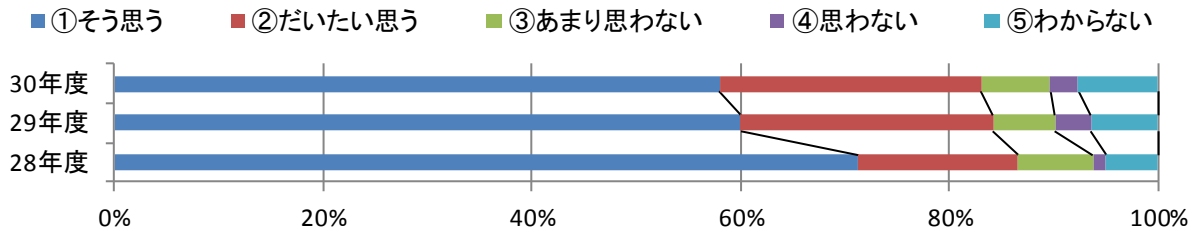
9 挨拶やマナー等の基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている。



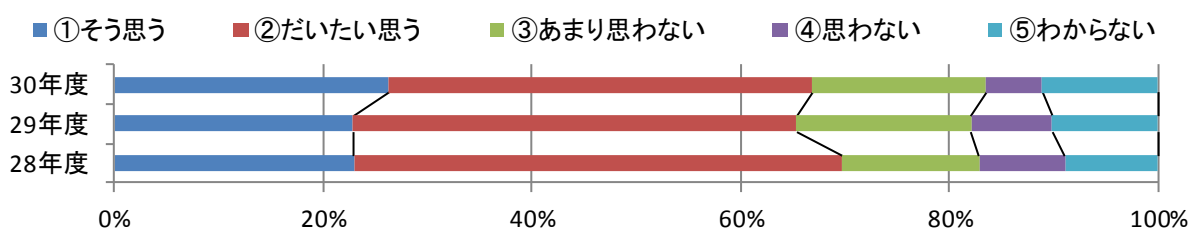
10 必要なときに相談に応じてくれる体制ができている。



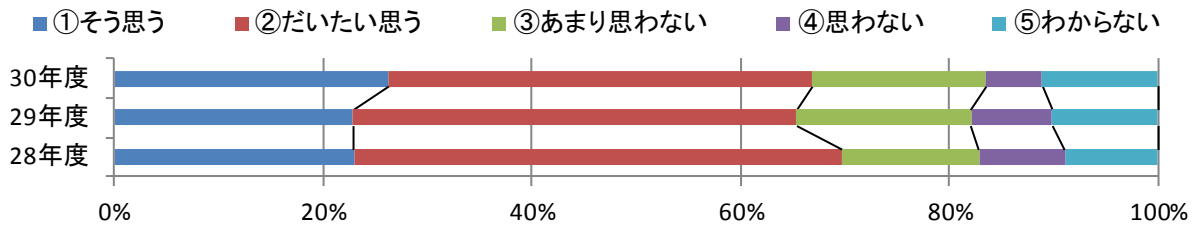
11 部活動は活発に行われている。



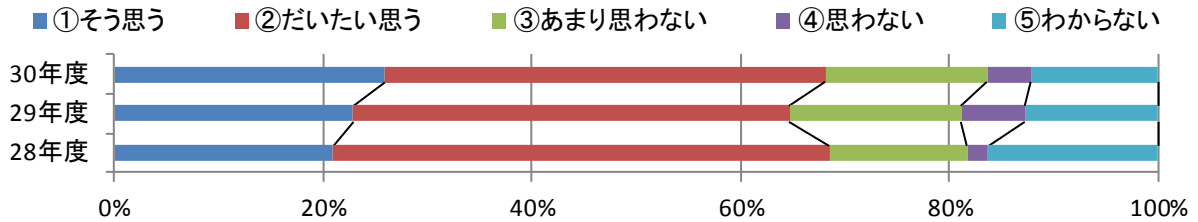
12 生徒会活動や学校行事は活発に行われている。



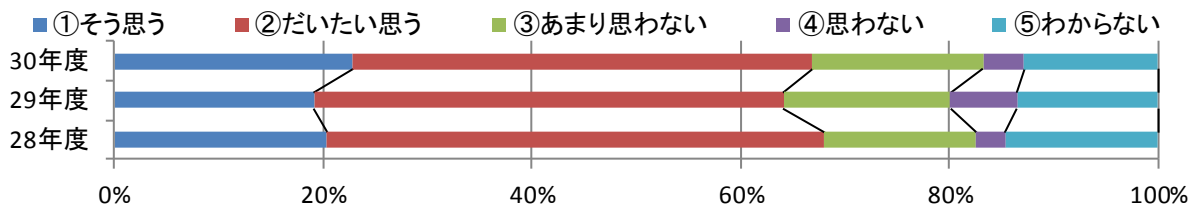
13 進路に関する情報は十分に提供されている。



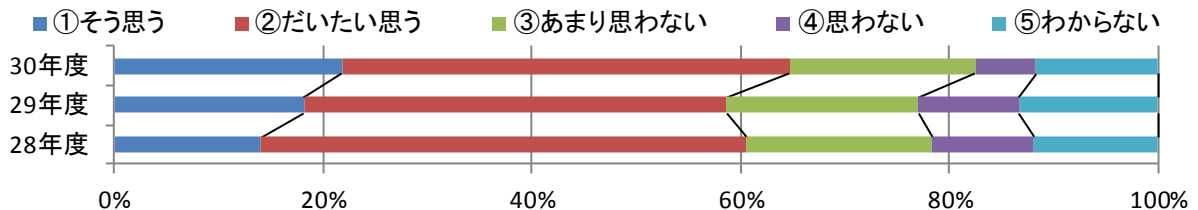
14 先生方は進路に関する相談に十分応じてくれている。



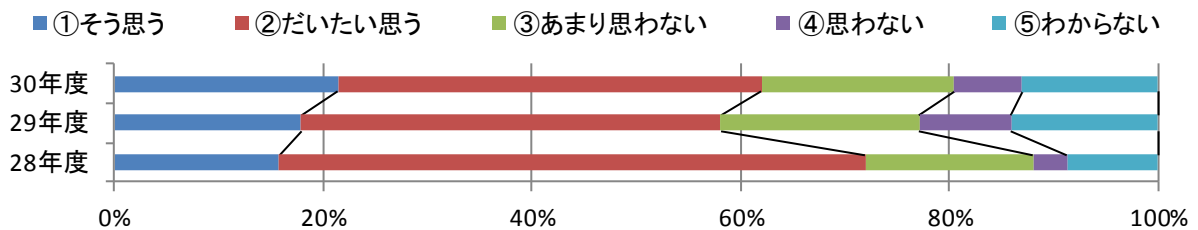
15 学校は進路講演会等様々な進路指導行事を工夫して指導にあたっている。



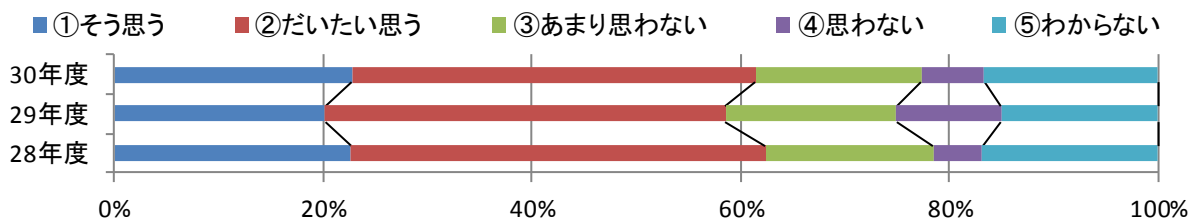
16 学校は進路達成のための学力向上をはかり、講習や模試を十分に提供している。



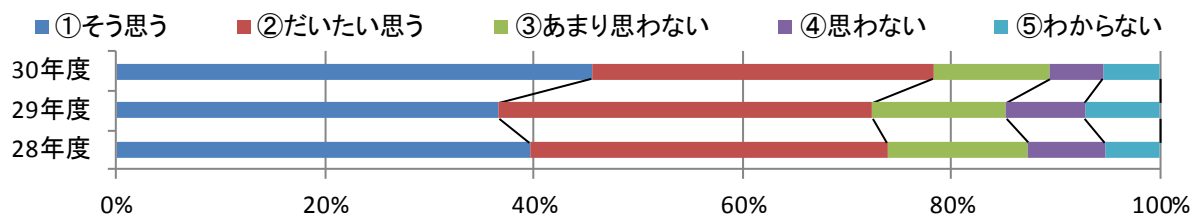
17 学校は生徒の安全や健康管理に積極的に取り組んでいる。



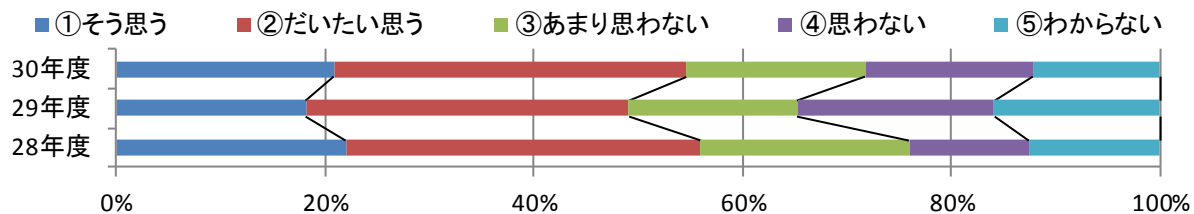
18 保護者に対して学校便りやホームページ等によって、学校の情報は適切に伝えられている。



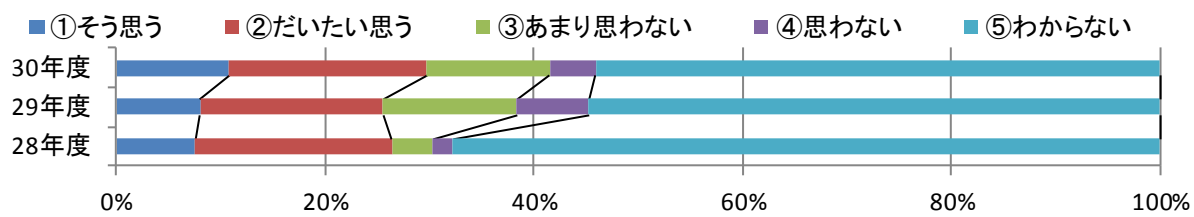
19 校舎やグラウンド等の施設や設備は整備されている。



20 聖和学園高に入学してよかったと思っている。



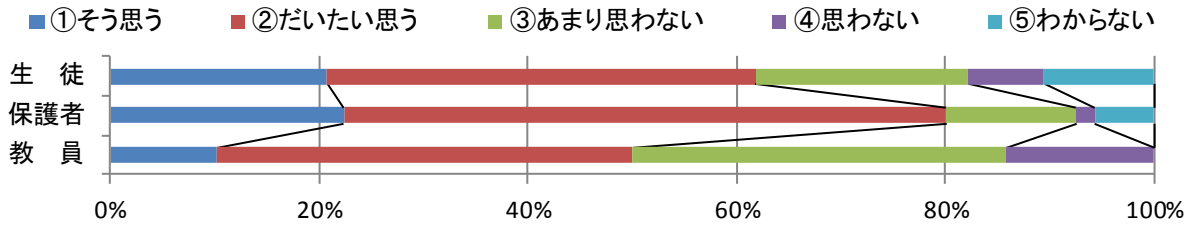
21 保護者教師会や同窓会との連携はうまくいっている。



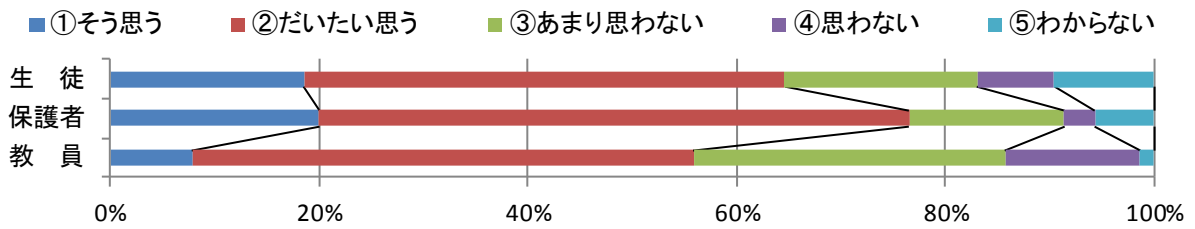
【質問項目別対象別回答比較グラフ】

質問項目

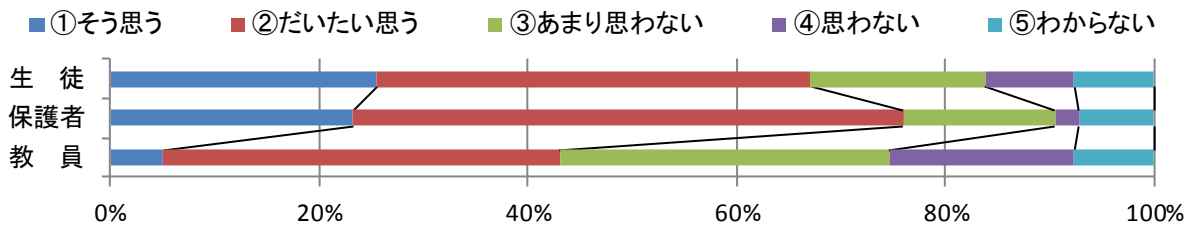
1 生徒は本校の建学の精神・校訓を理解している。



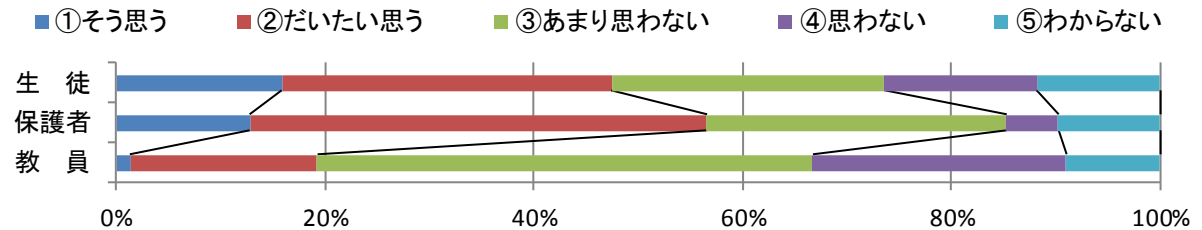
2 本校のコース，教育課程は生徒の個性を伸ばし，将来の希望を達成できるよう工夫されている。



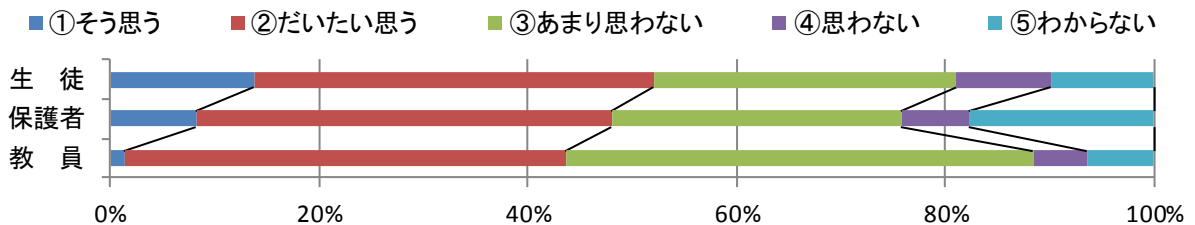
3 週一回の勤行や宗教の授業を通じて，仏教精神を体得できた。



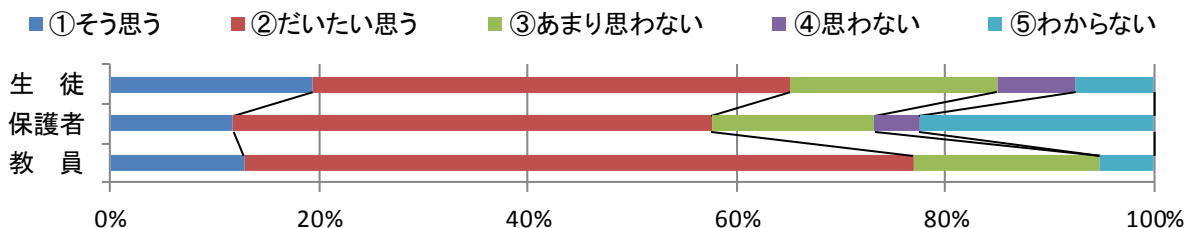
4 花まつりなどの宗教行事により新しい知識を得，仏教精神を日常の行動にいかしている。



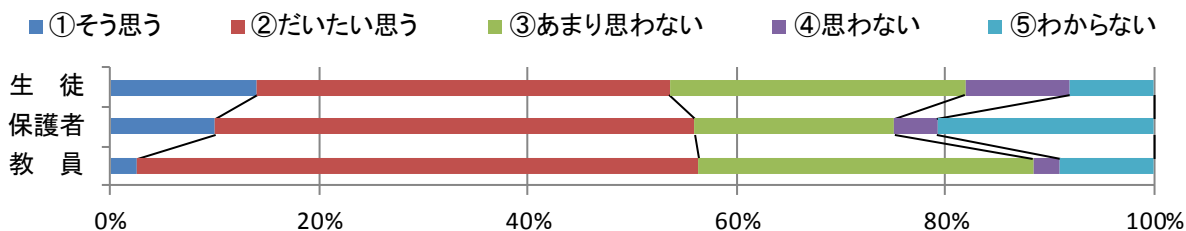
5 授業の目標や計画が明確に示されているので学習のようすがよくわかる。



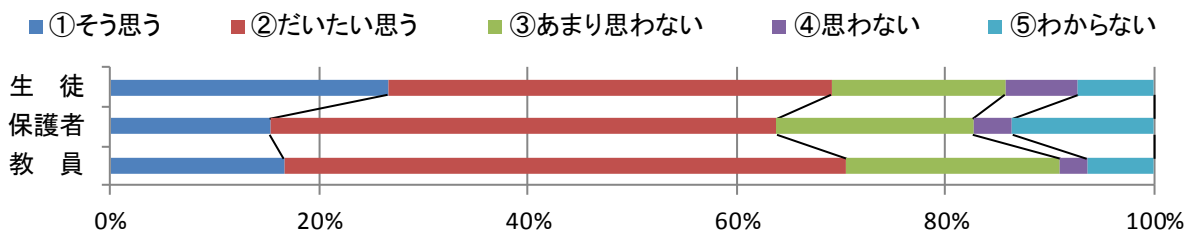
6 授業では各先生が，教材や教え方を工夫し熱心に指導している。



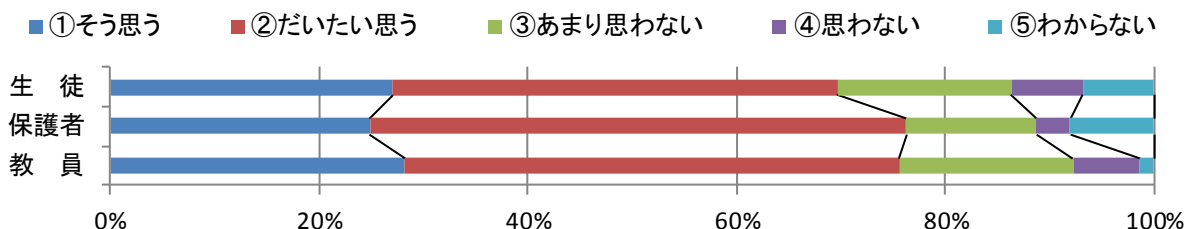
7 生徒にとって学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている。



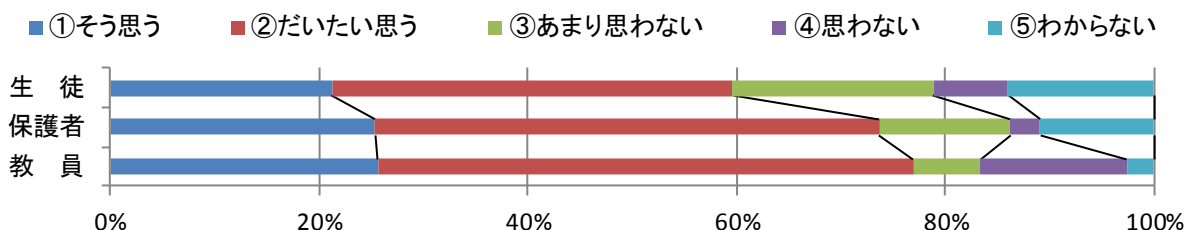
8 評価の仕方や基準が明確であり、事前に説明されている。



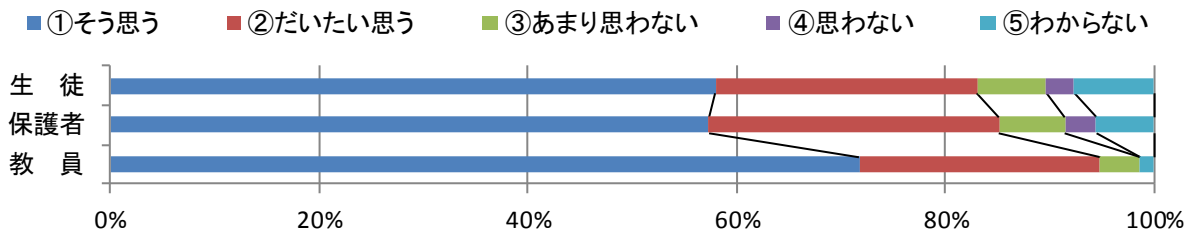
9 挨拶やマナー等の基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている。



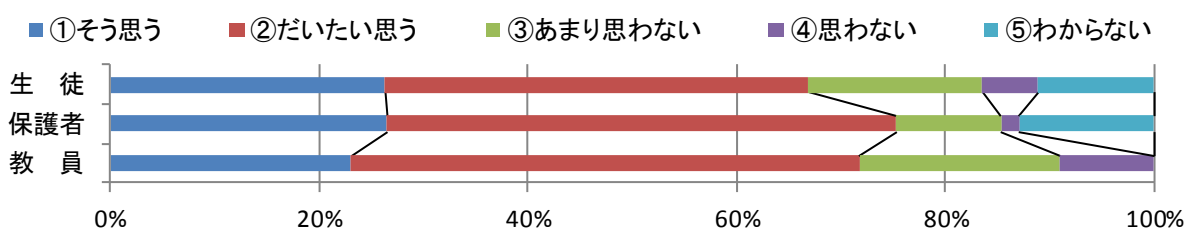
10 必要なときに相談に応じてくれる体制ができている。



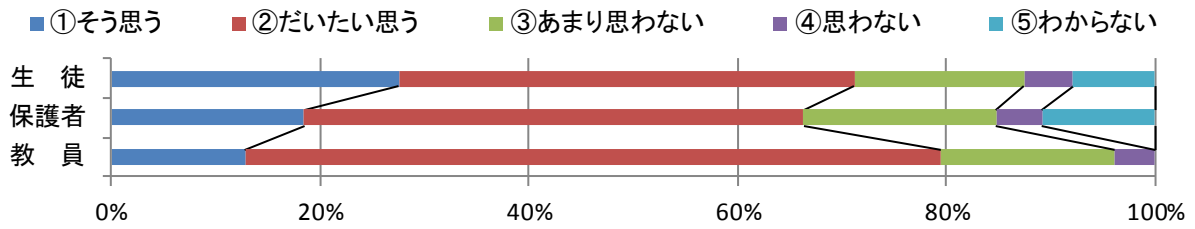
11 部活動は活発に行われている。



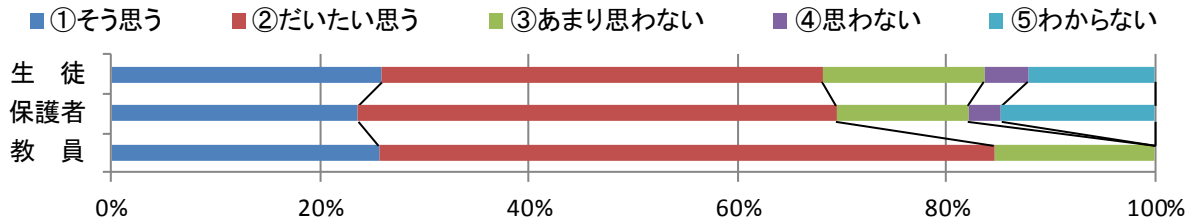
12 生徒会活動や学校行事は活発に行われている。



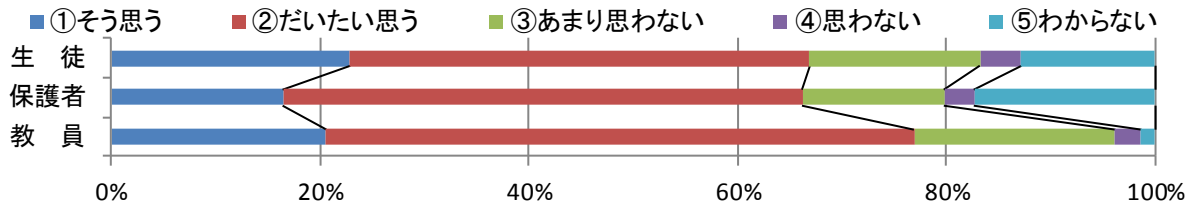
13 進路に関する情報は十分に提供されている。



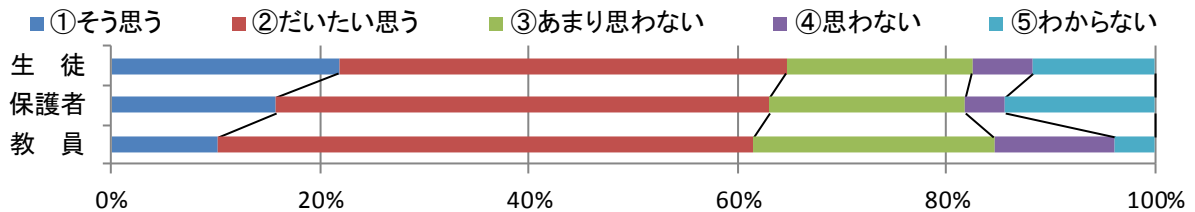
14 先生方は進路に関する相談に十分応じてくれている。



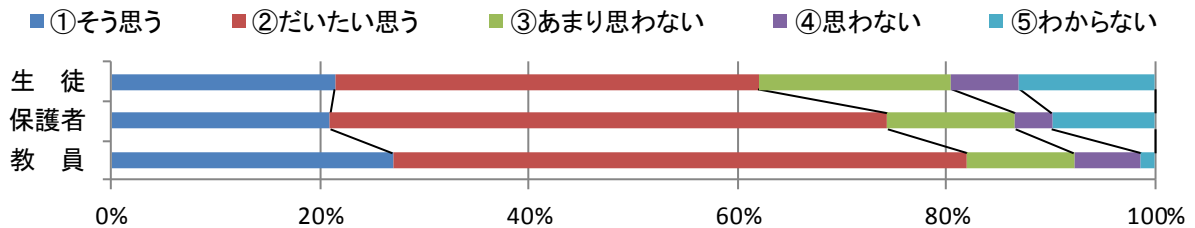
15 学校は進路講演会等様々な進路指導行事を工夫して指導にあたっている。



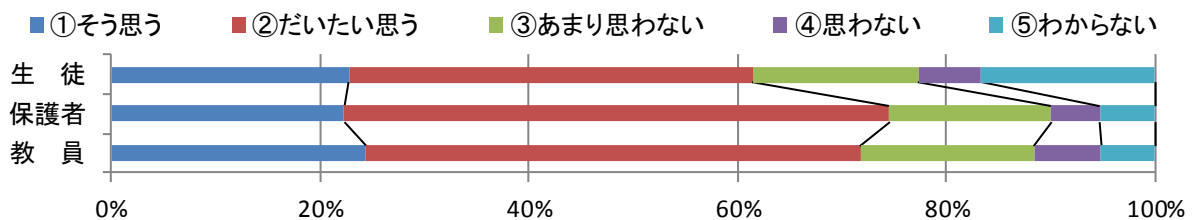
16 学校は進路達成のための学力向上をはかり、講習や模試を十分に提供している。



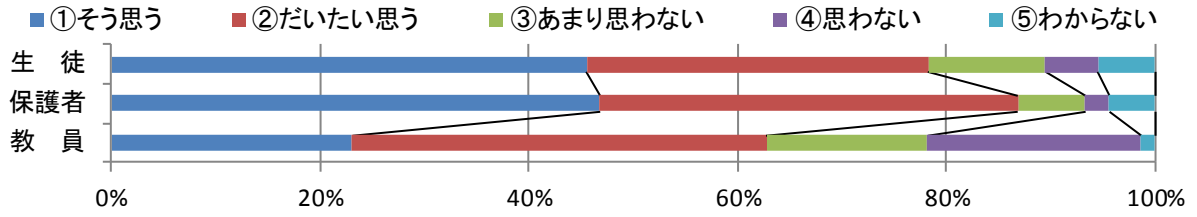
17 学校は生徒の安全や健康管理に積極的に取り組んでいる。



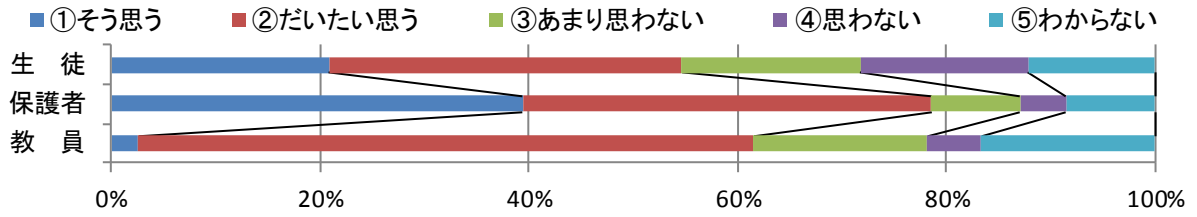
18 保護者に対して学校便りやホームページ等によって、学校の情報は適切に伝えられている。



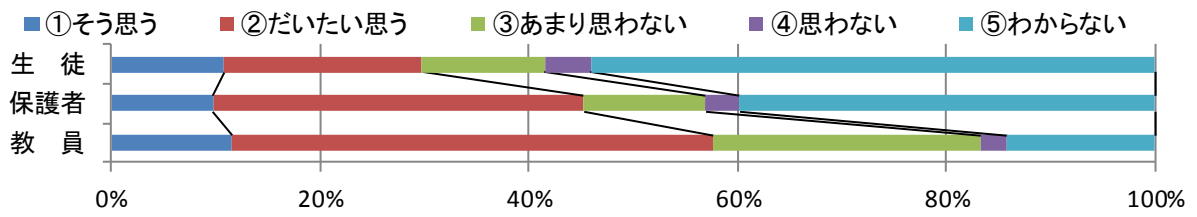
19 校舎やグラウンド等の施設や設備は整備されている。



20 聖和学園高に入学してよかったと思っている。



21 保護者教師会や同窓会との連携はうまくいっている。



【総括】

分析と今後の取り組み

《概況》

すべての質問項目に対し、①「そう思う」②「だいたい思う」とし、その割合を肯定的評価とし算出した。過去3年の評価は次の通りである。

| | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 |
|-----|--------|--------|--------|
| 生徒 | 63% | 55% | 67% |
| 保護者 | 70% | 72% | 69% |
| 教員 | 69% | 61% | 64% |
| 全体 | 67% | 63% | 67% |

生徒の全体評価は、ほぼ全ての質問に対し昨年度より上昇し、ここ3年間で最も高い結果を得ることができた。それに対し保護者の評価は昨年度に比べ若干低下しているが、ほぼ横ばいである。教員の評価は昨年度より3%向上した。

全体としては一昨年度の結果まで肯定的評価を盛り返すことができたが、今後尚一層の向上を目指したい。

《生徒回答について》

ほぼ全ての質問について肯定的回答が増加し、全体平均としては昨年度より12%も向上したことは嬉しい結果と受け止めたい。一昨年度、大きな課題点として挙げていたQ5(授業の目標や計画が明確に示されているか)については、徐々に肯定的回答が増加している。(H28, 42% → H29, 48% → H30, 52%) また、Q6(授業や教材の工夫や教え方に関する評価)及び、Q7(学ぶ意欲が引き出される授業か)について、昨年度より満足度が上がっている点は、教育活動の励みとなる結果である。各教科会議や、公開授業・研究授業を通しての学年会議において改善点を協議してきたこと、またシラバスの形式改善などが少しずつ結果に繋がってきていると考えられる。しかし、授業の質の向上は決して消えない課題である。平成30年度より授業評価アンケートを導入し、教員が自分の授業を生徒からの評価によって振り返る取り組みを開始した。授業に関する質問においては、今後7割以上の肯定的評価を安定的に維持できるよう努力を重ねたい。

一方、仏教教育に関する質問において、Q4(宗教行事における新しい知識の獲得および仏教精神を日常の行動に活かしているか)に対し、現在のところ満足度は5割に満たない。今後どう改善していくかが大きな課題といえる。

《保護者回答について》

全体平均は前年比若干低下したものの、過去3年間、約7割の満足度が得られている。しかし、保護者の肯定的回答は、21の質問中10項目について過去3年間で最も低い値となっており、好ましい結果とは言い難い。生徒の受け止めに対し保護者の満足度が低下した点は、昨年度と全く逆の結果である。

現段階で満足度が5割に満たないものはQ5(授業の目標や計画が明確に示されているか)、21(学校、保護者・同窓会間の連携について)の2つである。Q5に関しては、聖和ポータルを通じてのシラバスの提示をより分かりやすくすること、さらに生徒が家庭において授業の様子などを話題にすることができる機会の提供など、今後改善策を模索したい。さらに、昨年度の授業評価アンケートにおいて課題が浮き彫りとなった「家庭学習時間が少ない点」を各教科において改善していくことで、家庭の理解を深めていきたい。これまで以上に学習指導体制改善に尽力していくことはもちろん、公開授業の機会にこれまで以上に多くの保護者の参観を促し、保護者の理解を得たい。Q21(学校、保護者・同窓会間の連携について)は、昨年度は保護者の肯定的回答が向上し5割を超えたが、今年度は再び5割に届かない結果となり大変残念である。肯定的回答が得られにくい質問ではあるが、保護者・教員の連携なしには教育活動は成り立たないことを再度認識し、「わからない」と回答する保護者をいかに減じていくかが今後の課題である。

《教師の回答について》

宗教教育について、教師の肯定的回答割合が低い。これは、「仏教行事や勤行等についての生徒理解が得られていない」と感じている教師が多いと言える。特に、Q4(宗教行事における新しい知識の獲得および仏教精神を日常の行動に活かしているか)については、肯定的な回答がわずか19%と危機的状況である。今後、仏教教育や行事等のあり方や宗教教育全般について抜本的に見直すこととしているが、教師一人一人が建学の精神の大切さ、そして生徒が日常の生活に仏教の教えを活かせる身近な仏教のあり方について考え、向き合い、本校の教育活動の根幹に仏教精神があることを生徒と共に深く受け止める環境づくりを目指したい。

また、Q6(授業における教材や教え方の工夫)は、昨年同様、生徒保護者に反して教員の受け止め方が肯定的であるという皮肉な結果が出てしまった。教師の「つもり」と生徒・保護者の「うけとめ」の乖離を少しでも狭められるよう対策を講じたい。

今後の展望

上記の分析を通し、昨年度より設定している具体的重点目標をさらに推進することとする。

1.建学の精神の浸透施策

(仏教教育常務会と連携した宗教教育の見直し)

2.特色教育(コース・系、選択授業)の充実

幅広い学力層に対応し、個々の生徒の興味関心・意欲を引き出すための教育実践（コースの特色を活かした取り組みの充実）

3.教育政策の変化に伴う学習指導施策

- ① 教務(シラバス・学習指導・調査書・学習成果の把握など)に関する施策
- ② 授業，評価に関する施策
- ③ 大学入学共通テスト対策
- ④ 進路指導，その他の入学者選抜に関する施策
- ⑤ 総合的な探究の時間運営委員会（e-ポートフォリオ（生徒の学びに関するあらゆる記録）対策を含む）の設置